

牛女だより

〜旧暦文月の号〜

2010年8月発行
牛女舎
&
まんまるの木

蝉時雨のニムロ...

朝早くから蝉時雨が降り注ぐ今日この頃、毎日暑くてフーフーいっています。皆さんお元気ですか？ 蝉時雨は夏の季語ですが、ほんとうの時雨（しぐれ）は、晴れているのに雨が降ったりやんだりする現象で、晩秋のころのいたずら好きの雲のしわざ。近頃は時雨もかなり荒れていて、いたずらでは済まされない大きな被害を産んでいます。

夏の風物蝉時雨は、蝉の声が降ったり止んだりすること。早朝からなくのはミンミンゼミやニイニイゼミで、真昼の王者はアブラゼミ。夕方にはカナカナと寂しげなヒグラシ、オーシンツクツクとツクツクホウシがなくなるころは、そろそろ夏も終わりです。

ところで、七月の初旬、「まんまるの木」に新参者がやってきました。藤東造園さんからの素敵ないただきもの。空気をきれいにしてくれるサンセベリア（和名トラの尾）を筆頭に、おしやれな植木たちです。かなり可愛いのがねむの木の間で沖繩生まれのエバフレッシュ！。一階にいるのが「まる美ちゃん」二階にいるのが「ねむ太君」...と呼んでいます。

朝お店にいくと、彼らはすでに葉を開いていて「遅いぞ〜」と言わんばかり。夕方から少しづつ葉を閉じて、こっちがまだ働いているにも関わらずさっさと寝てしまいます。まあいい、ちよつと不思議な花を咲かせますが、なぜか全然違う場所にオシロイバナのタネのような実が房になってつきます。のどが渇くと葉を閉じて、水を要求するおりこうさん。どうして朝と夜がわかるのか不思議なのですが、光や温度ではないようで、たぶん体内時計を持っているのでしょうか。さすがに日中冷房がかかる環境になかなか慣れてくれなくて、ちよつと体調を崩し気味、早くまんまるに慣れてくれるといいなと、見守っています。

自然界の生き物は体内時計を持っているといいますが、あらゆるシーンで人の手によって秩序が乱されているから、さぞやみなさん困っているでしょう。それでもこの世の中の全てが生けの営み、人類を含め誰も彼もがんばっているんですよ。

一昨日、ダイエツトのために世田谷公園を歩いていた二才の娘が0時を過ぎて帰ってきません。ようやく戻ってきたら蝉の羽化を見ていたというから「私も〜」と案内してもらいました。

娘が「なちちゃん」と名づけたその蝉は、なんだか他の蝉よりドンくさくてのんびり屋さん。私が行ったときには、自分の抜け殻に前足でかじりついて下半身を殻から抜くために微妙に腹筋運動を繰り返していました。なちちゃんはクリーム色の体に黒いまんまるの目がとっても可愛く、ちよつとかえるみたい。やがて背中がちぢまっていた羽が少しずつのびて、とつともきれいな模様がうす緑のシースルーに浮かび上がりました。なんてきれい！ 娘も私も大感激。それもおつかの間、伸びきった羽は少しずつ茶褐色に変化していきます。そうですね。朝までに飛び立てるようにならなくちゃ短い命を全うすることができません。時刻はすでに午前二時、日が昇るまでにちゃんと飛べるか心配しつつ、物好き親子はお布団へ。翌朝、無事に飛び立ったことを祈って行ってみると、彼（彼女？）はどこにもおらず、抜け殻が幹にはりついていました。ふと見ると抜け殻の頭のところに足が一本ついたまま！、ぎよつとなつてあたりをみまわすと、ご機嫌で歩いているはずめの姿。その小さな嘴には不釣合の大きさの蝉がまるごとくわえられていたのです。「あつ！ なかさん？ かな？？」と思いつつも、ご機嫌のすずめから朝食をうばいとるわけにもいかず、「ああ無情」。まだまだ世の中知らないことだらけですね。

9月24日〜は、おなじみ沖繩の「さわふじ乃庭」のレイコさんプロデュースが連続します。まずはさわやかなウージ染めに囲まれて、26日は琉球舞踊が。10月1日からは、レイコさんと同じ宮古島出身、現在地元下馬にお住まいの山崎さんの古布をアレンジした手作り作品、かすりや藍を中心にした素敵な小物が。もちろんいつものレイコブランド・和傘や小物も並びます。日傘の

真摯でストイックなボクサーの心の声や姿！
肖像画を描くようにワンシーンに写し出す素晴らしいさは、
富田浩二さんならで

まんまるカレンダー 9月

- 1 (水)
- 2 (木)
- 3 (金)
- 4 (土)
- 5 (日)
- 6 (月) 定休日
- 7 (火)
- 8 (水)
- 9 (木)
- 10 (金)
- 11 (土)
- 12 (日) ミモザのつどい 14:00〜
- 13 (月) 定休日
- 14 (火)
- 15 (水)
- 16 (木) 富田浩二写真展「拳闘」
- 17 (金)
- 18 (土)
- 19 (日)
- 20 (月)
- 21 (火)
- 22 (水)
- 23 (木) ↓
- 24 (金) 沖繩〜ウージ染めの小物展
- 25 (土)
- 26 (日) 琉球舞踊
- 27 (月) 定休日
- 28 (火)
- 29 (水)
- 30 (木) ↓
- 1 (金) さわふじ乃庭 & 古布の小物展
- 2 (土)

まんまるの広場



「五五年目の夏、サダ」の思い、クミコの祈り」
いわきやすあ

佐々木禎子（ササキサダコ）さんをご存知でしょうか？ 広島に投下された原爆による被爆で白血病を発症し、昭和三〇年十月に一二歳で亡くなった少女の名前です。禎子さんは明るく元気な少女で、運動会でのかけっこでは誰にも負けないという運動能力も持ち合わせていたようです。余儀なくされた入院生活の中で、生きたいという思いを折鶴に託しました。名古屋の高校生からお見舞いとして送られてきた折鶴がきっかけで、禎子さんだけでなく多くの入院患者が鶴を折り始めました。祈るように真剣に一羽一羽を折り続けていったようです。しかし、願いはかなうことなく禎子さんは亡くなりました。

禎子さんの死後、市内にある幟町小学校の同級生らにより、原爆で犠牲となった子どもたちの霊を慰めたいと「原爆の子の像」の建立運動が提案されました。運動は全国に広がっていききました。そして禎子さんの死から一年後の一〇月、平和公園に記念像は設置されました。そのことをテーマに作られた歌が「INORIS祈り」です。今年二月にシングル盤としてリリースされました。この歌の作曲は、禎子さんの甥である佐々木祐滋さんです。佐々木さんは、ロックバンド「GOD BREATHE」（ゴッドブレス）のボーカルとして活動している人で、歌手のクミコさんに是非この歌を歌ってほしいという要望でリリースが実現しました。

みんなであいわい まんまるの広場！
おたより、イラスト・エッセイ・詩・俳句・悩み事・相談ごとイベント紹介など、皆さんの投稿お待ちしております。

「まんまるの木」になかなか来られない方、ちよくちよ

クミコさんは、シャンソンなどを中心に活躍するポピュラー歌手で、「わが麗しき恋物語」「わたしの青空」などのヒット曲があります。やさしくしっとりとした声に魅了されます。

ちなみに、誕生日がわたしと同じです。原爆投下から六五年、禎子さんが亡くなって五五年目の八月、上幟町にある流川教会では、原爆忌に合わせた二人の平和ジョイントライブが行なわれます。「INORIS祈り」はここで披露されるということです。

八月三日の読売新聞朝刊の「顔」にこの歌のことが紹介されていました。記事を見た私はさっそくこのCDを買いました。歌詞を見ながら聴いていくうちに、自然と目頭が熱くなりました。コラム記事のなかでクミコさんは「鶴を折っていると、無心になるんです。『折る』と『祈る』は漢字も似ています。この曲は、生きたいと願った一人の少女の歌であり、背景に何万人もの苦しみを抱えている歌。丁寧に丁寧に歌っていききたい」と語っています。

「INORIS祈り」の歌詞カードの裏には、鶴の折りが絵図で順序よく説明されていました。無骨な指でわたしも折ってみました。羽を広げて立体形になったとき、「ふうー」と禎子さんの願いを息にして吹き込んでみました。子どもへの虐待とか悲しくなる報道が多い今日ですが、精一杯生きること、肉親への愛、周囲の人への思いやり、友情、平和への願いということを素直に考えさせられたのです。

大庭君家の新聞

H12207



猛暑お見舞い申し上げます



（左）五月二十八日、希少植物の研究会で柴村では珍しい金縷を見つけてきました。知らない事一杯あります。



（右）五月十九日、田植えが終わり、山が芽吹きはつと一息



五月十五日ころより、根曲がり竹が出てきました。



父が、晩年手を入れて整備しました。大庭君家の竹林



めっけ・・・玉あじさい
NPO柴村ネットワークが、古道（淨光寺街道）の整備を昨年に行い、7/25 一部完成したので歩いてきました。途中柴村では珍しい玉あじさいが開いたところでした。NPO柴村ネットワークでは、村のええとこ探しをし、新しいスタイルの観光に結びつけるように・・・むらたび・・・を企画、日本の里100選に選ばれた柴村を再発見し、村の発展に繋がる事を目的としています。大庭君も少しお手伝いをさせていただきます。

↑長野県柴村の大庭さんです。「まんまるの木」愛用のおいしくて元気いっぱいイオン栽培のきは、こんな素敵なお店でこんな方が（小さくて顔見えるかな〜）作ってくれているんですよ〜。年齢は知りません。独身でもありません。素敵なお様も可愛いパグのメルちゃん（まんまるの木 1F にえのきの説明といっしょに写真があります）もいます。